
リリカルなのは -絆の戦士-

ムーンデイ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リリカルなのは - 絆の戦士 -

【Nコード】

N3432K

【作者名】

ムーンデイ

【あらすじ】

無印リリなの終盤にオリ主を加えたIF物語。なのフェイの決闘から、感動の別れシーンを二部に分けて公開。——自覚しているさ自分の弱さに。一人じゃ何もできない己の強さ。誰かがいなくちゃ仲間がいないと戦えない最弱魔道士ってことくらい。でもよ、それがどうした？ 守りたいモノがある。笑顔にしたいモノがある。だから、俺は立ち向かう……相手が大魔導師プレシア・テストロッサだろうと。”なのは”と”フェイト”、二人の幸せという名の未来を勝ちとる為に俺は行く！

ブローグ

『Charge』

ソラに響いた機械音。

そして同時に展開された、光の模様。

模様は魔力機械デバイスによる自動生成された魔法陣。
放つ魔力光は紫。

内部に二重の正方形を持つ真円形。

——それはミッドチルド式式の魔法。

「サンダーレイジ」

ソラに響いた女性の声。

彼女の前方に同じくミッドチルド式の魔法、つまり魔法陣が描かれた。

コチラ、術者の魔力で自ら作り出したモノ。

魔力光は同じく紫。

——雷鳴っ！——

轟く雷の音。

女性の前方に開かれた魔法陣からだ。

自らの魔力のみならず、周囲に散らばる魔力が集まる。

一つ一つが微弱だが、多数揃えば脅威となり。

凄まじい威力を発揮する。

ゴォオンと唸りを上げ、”魔力が雷へと変換”されていく。

「ロード……デイメンション」

女性、世界で唯一無二の大魔導師。

プレシア・テストロッサ。

彼女が見据えるのは、狙うは、襲うのは。

自分の夢と希望と生きる意味を奪い、自分の愛しいモノの姿をした悪魔。

「キヒヒヒ……ヤベエな、”俺達”。あの魔法は確かS+はあったような……」

プレシアから数十メートル離れた場所。

苦笑いを浮かべる、彼女から悪魔と呼ばれた少女^{しょうねん}。

長い金髪を後頭部の低い位置で一つにまとめた、ポニーテールが印象。

上下左右、何も無い空間で大の字になり動けないでいた。
よく見ると手首と足首に位置する所に紫色のリングがあった。

——ミッドチルダ式の拘束魔法^{バインド}。ライトニングバインド。

バインドとは空間に、魔力により対象の動きを封じる魔法。

そして、このライトニングバインドは、固定効果だけではなく、
雷撃系魔法の威力向上効果もある。

つまり、

「……今アイツが放とうとしてる魔法^{アレ}、少なくともSS+か。最大はSSS-と見た」

と呟いてから、ハッとなる。

「忘れてた。集束魔法じゃねえか……」

金髪の少女はプレシアと戦う仲間達の名を言う、

「なのは、フェイト……クロノとユーノにアルフ。あ、俺とプレシアもいたんだ。明らかに計測不能レベルだろ……」

数十メートル前方で魔力を集めるプレシアを見ると。
今まさに放とうとしていた——最強とも呼べる一撃をつ！

「……」

「滅びなさい。愛しのアリシアを奪いし悪魔めっ！」

——閃光っ！——

『Thunder Rage Road of Dimentio
n Breaker』

「——ブレイカアアアアアアアアアアアア！」

——雷撃っ！——

前方に魔法陣から放たれた閃光。

一気にソレはアリシアを飲み込んだ。

——雷焼っ！——

「ぐあああああああああああ！」

アリシアの悲鳴がソラに響く。

けれど、プレシアの魔法を止まらない。

否。止めるつもりはない。
更に魔力を込めて威力を高める。

最後の希望だった、願いと想いを壊され。
何十年とかけた計画を滅茶苦茶にされ。
拳句の果てには、自分の大切な宝物を奪った。

”もうアリシアは死んだ”。

”目の前にいるのは、アリシアの姿をした悪魔だ”。

そう。自分に言い聞かせ、絶対的な苦しみと痛みを与える為に全
魔力を込める。

破壊する——悪魔の肉体を。

粉碎する——悪魔の精神を。

殲滅する——悪魔を構成する全てのモノをつ！

- - - - -

——AM 5:10。

道場内で、二人の男が向き合っている。

朝のトレーニングか？ と聞かれれば、答えはノーだ。

彼らは約束をしているのだ。

決戦前の……。

「そろそろ行くのか？」

「はい、恭也さん」

恭也と呼ばれた青年は高町家の長男。

小太刀二刀御神流という剣術を父親の士郎から受け継いだ。

”とある少年”曰く「クールで寡黙且つポーカーフェイスを十八番とするので何を考えているのか分からない」。

だが、情に厚く優しい人。

「ガイル……なのはを頼む」

もう片方の男は、否。”とある少年”の名はガイル。
ガイルは、ニツと齒を見せて笑うと。

「おう、任された」

ただそれだけを言つて、道場を出る。
二人の言葉のキャッチボールはコレだけだ。
十分なのか、これで？ 答えはイエス。

それが恭也とガイル。
二人の友情だから。

- - - - -

——海鳴臨海公演 AM 5:55。

一番広い広場に佇む4つの影。
一つは先程の少年ことガイル。
彼の左右隣に立つ、二匹の獣。 橙色の狼のアルフと、フェレット
(っぽい)のユーノ。
そして、彼らの前にいるのが。

「出てきて……フェイトちゃん」

此処に来てから、ずっと目を瞑っている高町なのは。
彼女は念話で”とある人”を呼んでいるのだ。

——何故かって？ それは……

『Scythe Form』

何処からでも無く、彼女は舞い降りた。

自身の魔力機械の先端に魔力光を鎌の形状に発生させて。
デバイス
バリアジャケット
黒衣の防護服を、その身に纏った。

寂しげな目をした少女。

「フェイトお」

アルフは己の主の名を呟く。

母親の願いを叶える為に。

優しい母親に戻って欲しいから戦う、フェイトと呼ばれた少女。

「賭けよう、お互いが持っている全てのジュエルシードを」

『Put Out』

少女達のデバイスは、なのはの声と同時に出す。

互いが持つ、ロストロギア・ジュエルシードを。

「私達の全てはまだ始まってもない。だから本当の自分を始めるために」

なのはをレイジングハートをフェイトに向けて言う、

「始めよう……最初で最後の、本気の勝負！」

なのはは視線をフェイトを見据えつつ。
後ろにいる少年に右手を差し出す。

「お願い……ガイル君」

「ああ、勿論だ。なのは……勝つぞ！」

「うん！」

ガイルは自分の右手で、なのはの右手を掴む。

そして、発動する。

自分が持つ稀少技能^{レアスキル}を。

——^{オッン}繋がる絆。

瞬間。二人は光に包まれた。

「アルフ……私達も行くよ」

「分かった。ごめんよ……ユーノ、ガイル、なのは」

- - - - -

海鳴市海上。

空を駆ける”3つの光”。

『Photon Lancer』

”金色の少女・フェイト”は周囲に、^{フォトンスファイア}発射体を生成する。
数は4個。

『Divine Shooter』

”桜色の少女・なのは”ディバインスファイアも発射台を生成する。

数はフェイトと同じく4個。

否。8個と”1個”。

「ファイヤー！」

「シュート！」

「リングバインド！」

——射撃っ！——

”計13個”の魔法弾と4つのリングが放たれた。

なのはフェイト桜色と金色の魔法弾は宙で擦れ違う。

狙うは、自分の瞳に映る”敵”。

——打撃っ！——

ディバインシューター桜色の魔法弾はフェイトに当たる直前に。

一つ一つが小さな爆風を生み出す。

そう。”8個”全ての弾が叩き落とされた。

誰に？

橙色の狼・アルフだ。

「くっ、なのは！」

「大丈夫」

ガイルに返事をしつつ、自身へ撃たれた金色の魔法弾を器用に避ける。フォトンランサー

2対1……実質的には”2対2”だが、気を抜いてはダメだ。
止まることも、隙を作るのも。

（だから、もう一回、ディバインシューターを）

そう思うが、

『Blitz Action』

――刹那――

超高速移動魔法を使い、フェイトは一瞬にしてなのはの後ろに回り込む。

なのはは後ろに立つ脅威^{フェイト}に気付いていない。

ザンバーフォームとなったバルディッシュで、なのはを斬り下ろす。

（勝った）

その攻撃が通ったならば。

「ユーノ式アクティブプロテクション」

「っ！」

『Divine Shooter』

――衝撃っ！――

フェイトの攻撃が弾かれた。

なのはを守るように展開された、桃色と素色の縞々模様のバリアに。

「キヒヒヒ、俺を忘れちゃ困るんだな」

「シュート」

――射撃っ――

瞬間、防御する前に発動させたディバインシューターをゼロ距離でフェイトにぶつける。

「う……っ！」

フェイトの体が、数十メートルは吹き飛ぶ。

「なのは、まだだ。掴んだチャンスは逃すなよ」

「もちろん！」

『Shooting Mode』

レイジングハートをシューティングモードに変えて、片手で持つ。左手に握られたレイジングハートをフェイトに向ける。之は砲撃魔法に特化した形態。

『Two Device Mode』

転移。目の前に現れた”もう1機のレイジングハート”。それを右手に持ち、唱える。

『Divine Buster』

2機のレイジングハートの先端に魔力を集中させる。
もちろん、狙うは――、

（あれ程の高レベル魔法を二つ同時に？ でも……此処からなら避

ける)

「甘いな、テストロッサッ!」

——拘束——

「バインド? いつの間に……っ」

フェイトはリング型のバインドに捕まった。

実は、なのはとフェイトが魔力弾を撃ち合う直前に、
ガイルが仕掛けたモノだ。

「くっ……アルフ」

「てゅーか、気づかないのか? お前の使い魔の事に」
「はっ!」

そういえば、アルフは? とフェイトは自分の使い魔を探す。

最初の撃ち合いで彼女の魔力弾から自分を守ったアルフの姿が見えない。
なのは

(フェイトおゝ、下)

「アルフっ!」

見つけた。

海中に。

深い所ではないから、目視できる。

けれど、アルフも自分と同じくバインドで拘束されてる。

「すまねエな……アルフ、フェイト。この勝負は俺達の勝ちだっ!」
「うん! デイバイン——」

右に握る”コピー機”をアルフに向け。
左に持つ自身の愛機をフェイトに向ける。
狙うのは二人。

「バスタアアアアアアア！」

——閃光——

二つの膨大な魔力の激流が放たれた。

——衝撃——

激流は二人を飲み込み。否、叩きつける。
でも止まらない、突き進む。

（フェイトちゃん……これが私の本気だよ）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3432k/>

リリカルなのは -絆の戦士-

2010年10月13日13時55分発行